

指導教授推薦文

論文等テーマ 「特殊な文法形式をとる感情形容詞について」
日本語能力試験 1 級の出題語彙水準である感情形容詞を中心に

著 者 名 大石 有香

本論文で、大石は、いわゆる感情形容詞のうち、特殊な文法形式をとる代表的なものを取り上げ、各々について、対象格の意味類型を変化させ分析した。

「きのどく」「もうしわけない」「すきだ」「おかしい」「きらいだ」「すまない」の 6 語である。

これらの語は一般的な感情形容詞と同様の用法ができないため、日本語教育の現場では、困難が伴う。

この論文によって、各々の語の使い方が明確にされ、日本語教育の現場に貢献すること大である。また、文法的なしっかりしたバックグラウンドによって裏打ちされたものであり、研究論文としても秀れたものである。

2005年10月18日

推薦者（指導教授） 金田一 秀 穂

論文等テーマ 中国語の単文における時間表現

著 者 名 孫 偉

孫偉君は博士前期課程より一貫して中国語のテンス・アスペクト体系を明らかにするために努力を続けてきた。その最初の結実が修士論文である。第 2 の結実が本論文集前号に発表した「中国語複文の時間表現について」である。この論文においては中国語複文のテンス・アスペクトを体系的に扱うための理論構築を目指し、いくつかの新見を展開している。特に 中国語の時間関係をモデル図で表現すること、述語動詞の直後にテンスを担う動態助詞の入るべき位置を設定すること、その位置に何も入らない場合は、動態助詞が入るものとする、時間詞の使用により動態助詞の使用が過剰となり削除される場合があるとし、これは動態助詞が意味をもたなくなるからではなく、時間詞がその補助的代用となるためであるととらえること、相対テンスを理論的に明確に認めるに至ったこと、に特徴が認められる。

続く第 3 の結実となった本論文においては特に単文に焦点をあて、動態助詞、時間

名詞、時間副詞の関連を明らかにすることを目途として考察を進めている。

先行研究ではテンスを時間詞の分析によって解明しようとする傾向があったが、そのような研究法を踏襲してはテンスを体系として組み上げることは困難である。本論文では上記 から までの新見を駆使して、次のような評価すべき結論を得ている（単文を扱うので は対象外）。……中国語にはテンスの体系が存在していると考えられること、動態助詞によるテンス表現と時間名詞・時間副詞によるテンス表現は対立関係にあるのではなく、前者が基本となり後者が前者を補完する関係にあること。

以上により、中国語のテンス（・アスペクト）研究を一步前進させている論文であると信じ、ここに推薦する次第である。

2005年10月21日

推薦者（指導教授） 今 泉 喜 一

論文等テーマ 韓国人学習者の日本語の文字表記に見られる音声項目の誤用
長母音を中心に

著 者 名 姜 枝 廷

本論文は韓国語母語話者への新たな音声教育法を開発しようとする意図のもと、まず第一段階として、韓国語母語話者が日本語を学習する際に示す音声上の誤りの分析を試みている。

韓国語は日本語と似た文法をもつため、韓国語母語話者に対する日本語教育ではいきおい文法教育が中心となり、音声教育は積極的には行われていない。そのため学習が進んでも発音に母語干渉が見られることが多い。また、そのような形で誤ったまま身につけられた発音は後から矯正しようとしても困難が伴うことが多い。この現状を改善するためには、初期段階で要領よく効果的に音声教育を行う必要があり、そのための適切な音声教授法の開発が望まれる。

本論文では学習者の音声上の誤りを研究するのに、従来一般に行われていた研究方法……学習者の音声を音響学的に分析するという研究方法……をとらず、学習者の作文の文字表記に現れた音声の誤用を分析するという研究方法をとっている。これは、学習者の産出する音声の現象面を見ることも重要だが、学習者の音声に対する認識状況を明らかにすることはさらに重要であるという認識に基づいている。学習者の音声認識と音声産出の関係を明らかにすることによって、音声認識教育のあるべき姿が打ち出せるものと考えている。

論者自身、韓国語母語の学習者としての経験を持ち、日本語音声習得の困難点等も当事者として理解している。そのような立場にいる研究者として、日本人研究者には

できないような研究が可能であると思われ、また期待も大きい。論者は本論文で得た結論をもとに、次の段階へと研究を進めている。

本論文が日本語音声の新たな教授法の開発をめざすための一つの新たな研究法の第一段階を示すものであるとの意義を認め、ここに推薦する次第である。

2005年10月21日

推薦者（指導教授） 今 泉 喜 一

論文等テーマ 中国企業の行動分析 ハイアール社を中心に

著 者 名 施 重会

今回の施重会君の論文は中国企業の成長に着目し、企業の経営戦略、企業組織、企業の環境などとの相関関係を述べたものである。第1章の同君の研究の中心点となる経営戦略、企業組織に関する学会の研究方向から論を起し、世界的な視野に立った研究姿勢を明確にしている。

また、第2章では最近、中国企業のなかでも注目を集めているハイアール社を取り上げ、ハイアール社の年次報告書などを参考に分析を行っており、中国企業に何が足りないかを考察している。

最近の中国の学会ではA.D. チャンドラーの多くの研究に着目し、このツールを使って企業行動を考察する領域があるが、施さんはチャンドラーの研究に足りない企業環境を捉えており、企業組織においては内部のトップのメンバー構成を考えており、その特徴を伝えようとしている。

ハイアールの最近の行動で注目すべき点は経営戦略にあり、設立当初の国内企業のM&A戦略から海外企業の合併買収戦略へと重点を移している。この状態はこれからも持続していくものと考えられる。しかし、グローバルな視点から考える時にまだまだ制約があり、これを乗り越えることができるかどうかであろう。

施君はこの秋の Semester で大学院博士課程を満期退学し、現在、富士電機ファイブ株式会社に入社し、これまで学んできたテーマを実際の世界で再検討している。現実の企業の行動を実体験し、さらなる研究の向上が期待できる。

2005年9月30日

推薦者（指導教授） 武 内 成

論文等テーマ アメリカ合衆国と中国におけるインフラ比較

著者名 鄧 風華

鄧君の研究テーマは経営情報論である。同君はこの論文において情報化社会の大前提であるインフラストラクチャの成立と発展について研究している。そこでまず、第1章においてアメリカ合衆国のインフラがどのように整備され、1980年代のコンピュータとコミュニケーションのつながりについて述べている。

特に80年代のアメリカはコンピュータの中心地の感があり、あらゆる方向で世界の指導権を握っていたが、コンピュータの小型化とインターネットと出現は目指しいものがあつた。TCP-IPなどはインターネットができあがる上で重要な役割を果たしており、IBM社の方向と違って、ますますコンピュータは小型化に突き進んでいく。しかし、この段階ではインフラとしては一部の研究者だけが利用できるものであり、一般化と統合化は1996年まで待たなければならない。

すなわち、これが情報技術、いわゆるIT時代の到来であつた。このようにアメリカ合衆国ではインフラストラクチャの発展は時代の要請を反映して拡大していった。

一方、中国が情報化問題に遭遇するのは20年前からであり、比較的急激であり、早さはいろんな問題を生んでいる。しかも、インフラ整備の遅れはオリンピック、上海万博をひかえて緊急事態となっている。この問題は中国における情報化がいまだに点であつて、線となつてつながっていないことにある。

以上のような課題をどのように乗り越えるかが最大のものであろう。鄧君はこのような状況に中国がどのように対処していくべきかについてアメリカとの比較から述べている。

2005年10月1日

推薦者(指導教授) 武 内 成

論文等テーマ 日本における女性労働活用の課題と展望

著者名 染谷 真己子

染谷君の論文は前回と同じく、ロザベス・モス・カンターの一連の研究をもとにして前回はアメリカ合衆国の企業社会において女性がどのようにビジネスの世界が受け入れてきたかを研究していたが、この論文ではカンターの『企業のなかの男と女』を中心にして、現在の日本の企業においてどのように女性の活用がされているのかを論じたものである。

これを日本IBM社、P&G社、資生堂、日産などの企業の事例を検討している。

この問題は単なる数の問題であるのか、何よりも能力による男女の差別のない処遇こそが問題であると考えられる。いわゆる外資系企業ではある程度、当然のことであるかもしれないが、女性を顧客とする資生堂ですら、未だに女性の役員の数はそれほど多くない。

確かに、女性を雇用するときに管理職を目標として採用する企業はあまりない。しかし、日本企業の人口構成が減少傾向にあり、労働力人口の減少も眼に見えていることは染谷君が本文で展開している通りであり、この労働力人口減少問題は日本経済の大きな課題でもある。ここにおいて閉鎖的な日本社会がどのような対応していくのであろうか。外国人労働力の移入はあまり考えられないし、この点ではIT社会の到来こそ求められている。

このことから理解できるように女性労働力活用問題は日本社会の重要な方向付けになるものと考えられる。その意味でもどのように問題を解決していくのかという問題を今後も考察する必要がある。

2005年9月30日

推薦者（指導教授） 武 内 成